

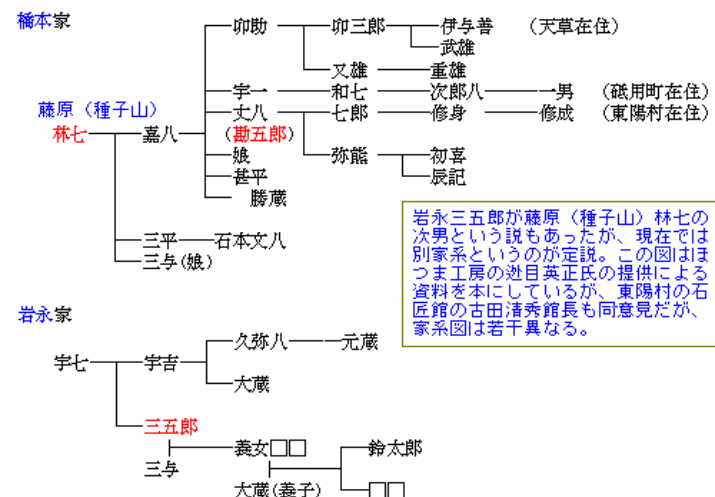
「肥後の石工」年表

「肥後の石工」といっても、江戸時代から明治時代まで数多くの石工がいました。その中でも、加藤清正の熊本城築城に関わった「近江の石工」をルーツとする「仁平石工グループ」と、長崎奉行所の武士「藤原林七」を祖とする「種山石工グループ」の2つの大きな石工集団に絞って、年表形式で紹介します。

「仁平石工グループ」の石橋は、長崎の石橋を参考とした中国式(リブアーチやくさび利用に特徴)で、主に県北を中心に1700年代後半から1800年代初期にかけて架設しています。一方、「種山石工グループ」は、1800年代初めから、八代市東陽町種山地区(旧種山村)を拠点として、通潤橋をはじめとするアーチ式石橋を日本全国に造り続けていった土木技術集団で、開祖「林七」以来の独自の技術工法による熊本(日本)式の石橋を手がけています。

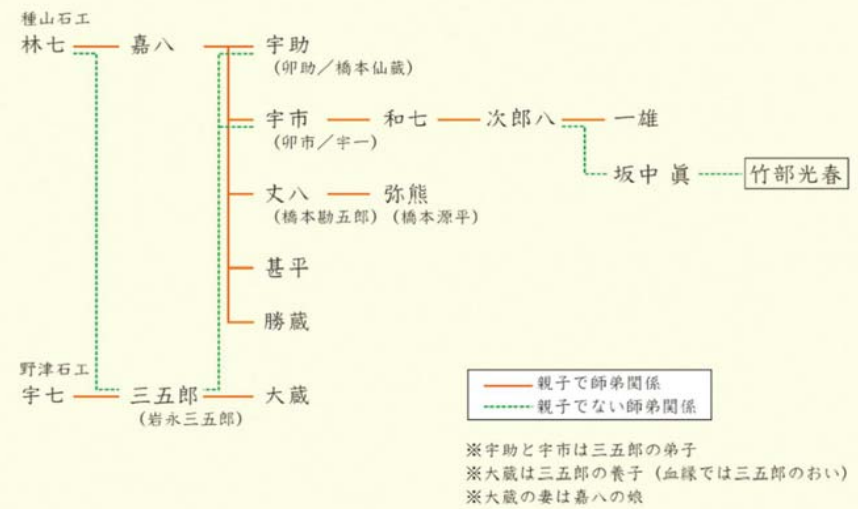
西暦	1601	1607	1634	1765	1774	1782	1787	1793	1802	1805	1808	1817	1821	1822	1832 ~1839	1839	1845 ~1849	1847	1848	
元号	慶長6	慶長12	寛永13	明和2頃	安永3	天明2	天明7	寛政5	享和2	文化年間	文化5	文化14	文政4	文政5	天保3~10	天保10	弘化2 ~嘉永2	弘化4	嘉永元年	
仁平石工グループ	りめ加藤石、近藤清正を呼ぶ寄せる。熊本城築城のよ	島たち本城(益完)に郡。住まわける。現嘉	で帰崎九そ長あるに郎の崎。行に後中。仁、息上川。橋村眼石工仁の鏡工法平石橋の誕生学が長		へ熊「仁平」の山鹿市橋を架ける。口に	る陽「仁平」に黒川南阿鏡橋を架ける			架衛仁平グループの石工「豊岡橋」を架ける		町仁平グループ(「?」)、御船									
種山石工グループ				る種山石工の開祖とされる。		に橋武この頃、長崎奉行の技術者「林七」が来り、	石姓山この頃、林七の技術を習得した。種	し野津石工三郎が生まれる。		架上この頃、林七が鍛冶屋橋を架ける		雄砥三三郎(現里月)が築城に	るりしれ組七。役、野丁三郎、石中、功績を引く	る(石橋)本勘五郎(男)が生まれる	に三聖橋を架ける。(現山都町)	尻と嘉八の次男「山都」の、小野親	架川に永三田橋など五石の橋を架ける	石工助・文八兄弟を架ける。2人の	橋が宇助・宇市・御船の3兄弟	
	1849	1850	1851	1854	1855	1859	1860	1870	1873 ~1874	1875	1877	1886	1889	1893	1896	1897	1933	1955	2005	
	嘉永2	嘉永3	嘉永4	安政元年	安政2	安政6	万延元年	明治3	明治6-7	明治8	明治10	明治19	明治22	明治26	明治29	明治30	昭和8	昭和30	平成17	
	る(新助・美里町)大窪橋を架ける	金内橋架ける。(現山都町)	三五郎、59才で死去。	る基宇市が棟梁となり、通潤橋を架ける	を基平・文八、御船の八勢橋	る文八の次男弥熊が生まれ	立宇市が棟梁となり、菊池に	とこの頃、文八、「勘五郎」	架ば橋本勘五郎、明治政府に	架勘五郎、熊本市に明八橋を	架勘五郎、熊本市に明十橋を	に勘五郎・弥熊父子、御船町	に遠坂岩吉・畑中尉助、産山	上勘五郎・洗玉橋を架ける。福岡県	東畑中尉助、宇城市小川町海	7橋本勘五郎死去。7月17日に	部種山石工七代目となる、竹	陽種山村と河俣村が合併、東	代東陽村が八代市と合併、八	

種山石工の家系図



岩永三五郎が藤原(種子山)林七の次男という説もあったが、現在では別家系というのが定説。この図はほぼ工務の遊目英正氏の提供による資料を本にしているが、東陽町の石匠館の古田清秀館長も同意見だが、家系図は若干異なる。

竹部光春氏と種山石工の師弟関係



「肥後種山石工技術継承講座」次世代につなぐ石橋構築・修復技術より

「日本の石橋を守る会」

「日本の石橋を守る会」は、全国の石橋(石造アーチ橋)が解体・廃棄されることを危惧した有志により1980年に結成された石橋の保護活動団体で、石橋の存続のための多様な活動を続けている。「日本の石橋を守る会」(<http://www.ishibashi-mamorukai.jp/>)

江戸後期の熊本(肥後)種山村(現 八代市東陽町)に、日本国内最高峰の石橋築造技術を有する「種山石工集団」がいた。しかし、現在その技術保持者は竹部光春氏※、ただ一人となっている。そのため、消滅しようとする石橋構築技術、および石橋そのものを継承し保存するために、2011(平成23)年度より「種山石工養成講座(平成29年度から(社)石橋伝統技術保存協会に移管し、現在は石橋保存技術者養成講座)を開始、少人数による確実な石橋構築技術の後継者育成を行っている。「(社)石橋伝統技術者保存協会」(<https://www.ogami.co.jp/acts/index.php>)

※竹部光春氏(熊本県下益城郡砥用町(現 美里町)出身)

石橋の構築修復技術の継承者である竹部光春氏は、肥後種山石工の祖、藤原林七から数えて7代目となる、種山石工集団の確かな技術を受け継ぐ、ただ一人の技術的末裔である。

※この年表は、『「肥後種山石工技術継承講座」次世代につなぐ石橋構築・修復技術』及び熊本国府高等学校パソコン同好会のサイト「肥後の石橋」等を参考に作成しています。

『「肥後種山石工技術継承講座」次世代につなぐ石橋構築・修復技術』

http://www.ishibashi-mamorukai.jp/taneyama/20150218-0005-001/_SWF_Window.html

「肥後の石橋」

<http://www.kumamotokokufu-h.ed.jp/kumamoto/isibasi.html>